

「見だごどねいげんじよ若<sup>わ</sup>えみそらで夜なんか歩いてるもんじゃねえぞ。」  
つて、なんだかんだ話しながら歩いていんだげんじよ、なんぼ歩いてても歩いてても家の近く  
になんねだど。

「何だ、おがしねなー。」と思つて、あたりを  
見回して見たら、どーも、家と反対のほうに来  
てんだど。

「これは、やらつちやな。」

と思つたじいさまは、

「なあ若い姉<sup>あね</sup>さ道<sup>ま</sup>間<sup>ちが</sup>違<sup>が</sup>えてしまつたみでだ。ちつ  
と、腰おろして休んでいぐべ。」

つて言つて、じいさま尻<sup>し</sup>ついで、たばこに火つ  
けだら、キツネがたまげで、

